

令和2年度 まちづくり懇談会 市長説明要旨

テーマ 若者に「選ばれるまち」の実現に向けて

早速でありますけどもお話の方に入りたいと思います。大体この話をすると若者は一体どのぐらいの人のことかと皆さん思うと思います。

私ども若者と、一言で言わせてもらっておりますが、20代から40代ぐらいを想定させていただいております。要は働き盛りといえますかそうした方々を想定しているところであります。

若い人たちだけのことを何かしようとかそういうことではなく、やっぱり若い人たちが、この地域にいなくなってしまうと、高齢者の方々も負担が多くなりますし、いろいろ大変なことが起きてしまうと思います。

市という立場から言うと、税収も減っていかってしまうとかいいことはなかなかないわけでありまして、やはり若い人たちに、このまま茅野に居続けてもらう、あるいは帰ってきてもらう、そしてまた新たにきていただく。そうしたことに繋がるような施策を展開していきたいと思っております。

お話に入る前に、一応押さえておくということで、これも、あちこちでお話をしていますので、知っている方もいると思いますが、茅野市の人口は5万5000人ほどですが、2ページは、そのまま何も手だてをせずに行くと、どんどん人が減っていくという図です。10年経つと3000人ぐらい減るとなっています。それから、20年後40年後には、4万人ぐらいになるのではないかと、推計が出ているということです。あくまでも、これも推計ということになります。

それから、もう一つ押さえておかなければいけないことが、財政状況であります。5ページの財政状況は、現在茅野市は大体250億円ぐらいの年間の一般会計予算でやっておりますが、どうしても自然に増えていく部分、例えば、高齢者福祉の関係ですとか、あるいは医療費の関係ですとか、これは自然に増加をしている部分がございます。それから、いろんなインフラの整備、新しい何か建物を建てる等そういうものは、起債、要するに借金をしているので、返済をしているというものも結構ございます。そうしたものの、固定費が多くなってきます。どうしても、入りに対して出の方が大きくなってしまっているということがありまして、基金を取り崩して予算を、ここ数年、編成するという状況になってしまっております。要は貯金を崩して、1年間の家計を持たしているという形ですけれども、大体年に4億円から5億円ぐらいは、基金を崩して、編成しているというような状態になっています。

それから、もう一つ、これがさっき言ったように、財政が非常に硬直化しつつあるということです。6ページのオレンジ色の部分が固定費の部分です。固定費の部分に対して、青い部分が、いわゆる、自由に使えるお金、新しい事業をしたり、新しい建物を建てたり、道路を直したりすることに使える部分ですけども、これがだんだん先細りをしていくという、あくまでも推計が出ているということになります。このまま、同じようにやっていると、厳しくなってしまうことを一つ押さえて欲しいということになります。

今は財政の面で、このままでいくと従来どおりやっていくことが難しくなりつつありますということで、財政面からお話をさしてもらいましたが、一方で、これは企業活動だとか、それは地域のいろいろな活動も、やはり今の状態ではどうしても若い人たちが減って

きてしまっているのです、企業も人手不足になってきています。いろいろなところでよくバスのお話が出ますが、バスの運転手さんもない状況になってきていて、路線バスを動かすことも大変難しい状況になりつつあるとバス会社さんから、聞いているところであります。

地域に目を向けますと、最近はどこもそうですが、消防団の団員の確保が、とにかく厳しくなっている状況の中で、今年は消防団のあり方といいますか、そのやり方といいますか、そういったものをみんなで検討しましょうということで、消防団で今一生懸命議論をして検討していただいております。どういう形になって出てくるかはわかりませんが、人が少なくなってしまう状況下での消防団のあり方というものをやはり考えていかなければいけない時代になってきているということでもあります。

それと同じように、PTAの役員さん、地区の様々な行事を行う役員さん、区会議員の皆さんや、公民館の役員さんや保健指導員など、いろいろな役員も、非常に手不足で、厳しくなっています。私は、消防団を31才でやめられたのですが、今の方は45才以上が普通になってしまっています。45才以上になると区の役員も回ってきて、非常に一人ひとりの負担が、若い人たちや高齢者の方々も、非常に負担感が強くなってきているという状況です。財政的にも、あるいはこういった地域のシステムといいますか、やり方を従来どおりやりたいが、従来どおりではできなくなっている。そんな時代を迎えているのではないかと思います。

そうしたところで、従来どおりにやることは、なかなか難しいかもしれませんが、そこを上手くシステムを変えたり、あるいは新しい技術等を入れる中で、何とか今と同じような、結果といいますか、同じような形を維持できないかということいろいろ考えているところがございます。とにかく、このまま何もしないでいると、何となく気づかないうちに、悪い方へいってしまうという状況にあると思いますのでやはり良い循環に何とかしていきたい。そんなふうに思っているところであります。

実は去年、約1年間かけて、第二次茅野市地域創生総合戦略を策定させていただきました。この計画の上には総合計画がございまして、そちらはいわゆる言い方悪いですけども総花的な計画全体を網羅した計画がありますが、この計画につきましては、若い人たちを呼び込むための施策、あるいは若い人たちが、残るようなそうしたものに特化した形での計画ということになっております。例えば観光はどうか農業はどうか、そのようなことに直接的には触れていないような計画になっています。

実はこれをやっておくことによって、他の産業とかにも影響するというふうに見てもらえるとありがたいと思いますけども、実はこの計画を実現するために、スーパーシティというものにエントリーしたらどうかということで、今準備をしているところであります。スーパーシティというものは、国の方で一定の基準が設けてありまして、一定の基準の中から、5項目以上を一つのパッケージングにして、申請をするものです。これが認可されますと、国の特区的な扱いになるものですから、いろいろなことがスムーズにしやすい。それから、国の支援も受けやすくなると、いうことでありますので、これにまず挑戦してみようということをやっております。

それは何のためにやるかという、11ページに書いてある6つの事業を実現するためにスーパーシティに、エントリーしていこうということで行っていますが、仮にこれがエントリーして、採択されなくても、向かう場所は同じということになりますので、高速道路でいけるのか一般道でいくのかという選択になろうかと思いますが、採択されなくても、

そこへ向けて、一歩一歩やっていけばとそんなふうに思っているところでもあります。

スーパーシティは全国で、50～60ぐらいの地方自治体等がエントリーをしようとして準備をしております。茅野市ぐらいの5万5000人規模の市はほとんどなく、ほとんどが大きな市になっています。それで、少なくとも10万人くらいいるところが、皆さんエントリーをしていますが、その中で5つしか選ばれない。そんな状態でかなりハードルは高いということになります。

ただ、この1年間準備をする中で、いろいろなご意見や、国の方で主催する研修会もあるので職員が参加をして勉強や話を聞いていますが、いろんな全国の同じ悩みを抱えた地方自治体の皆さんとのネットワークができて、いろいろとお互いに切磋琢磨して情報交換をしています。そんな環境もできつつあって、それはそれで一つの成果として、よかったと思っております。何れにしましても、国の方の動きがまだはっきりしていませんが、本年度中にエントリーをしていくという予定になっております。

そのエントリーしている内容について、ちょっとお話をさせていただこうかと思えます。

まず、今一番進んでいる事業から話しますと、テレワーク、ワーケーション。コロナになりまして、テレワークという言葉も大分皆さん聞くようになったと思えますが、要は自宅や、あるいはちょっとした貸オフィスのようなスペースで、会社までいなくても、仕事ができるというような働き方ですが、これを進めていこうということです。当初まだ計画を作った頃は、全然コロナ禍ではなかったものですから、夏の涼しい間、都会の人が、涼しい茅野へきて、2か月ぐらい長期滞在し、こちらでお仕事してもらい、それで行ったり来たりをしてもらう中で、1人でも2人でもいいから、茅野に住んでもらう人が出てくればいいなど。簡単に言うとそういうことで、行っていましたが、今コロナ禍ということで、多くの問い合わせが、茅野市にも来ています。おかげさまでグリーンヒルズビレッジの団地も、好調な売れ行きになっている状況下にあります。

これは、どんなことを考えているのかと言いますと、ワークラボ八ヶ岳という、コワーキングスペースがベルビアにあります。そこを核にして、ワーケーションをまずやってもらう拠点にしてもらうということで始まりました。そこにいる人たちに、どうして茅野を選んだのかと聞くと、やはり、東京と名古屋からちょうど2時間ぐらいで、しかも車でも電車でも、同じような時間でくることができると、非常に便がいいと聞きました。自分1人で来るときは、電車でくることができると、荷物を運んでくるときは、車で来ればいいと。また、ある人は、伊那の方でしたが、伊那に本社があるが、東京の人との打ち合わせを茅野でやっている。ここは駅から、一分もかからないで来ることができる場所なので、打ち合わせするには非常に便利、この諏訪地域の企業さんとも、取引をしているので、ここに事務所一つ設けると大変便利なので借りていましてお聞きしました。

今、そうした方々にたくさん借りていただいています。富士見も同じようなコワーキングスペースで、森のオフィスがありますが、その人たち同士がいろんな交流が始まっています。

これから私どもは、立川周辺の、東京の多摩地区周辺のIT企業の皆さんとの交流をしていこうということで、立川のIT交流会という皆様方と、交流を始めようとしています。交流会の会長さんにご理解いただき、コワーキングスペースを借りていただきました。これからオフサイトミーティングとって、週末にこちらに来て仕事をしていただき、土日は、リゾートで観光や山登りなどしながら、使えることをオフサイトミーティングと言いまして、環境を変えて、いろいろと物を考えたり仕事をする、そうしたことをいろいろや

りながら、交流をこれから深めていきたいと思います。そういうようなことで始まっています。また、農ある暮らしという、県の方の事業がありますが、東京の首都圏の方で、茅野市の魅力をアピールすることもやっています。例えば八十二銀行さんの八王子支店さんの方に、茅野市のコーナーを設けていただいて、そこで観光案内と同時に、物件情報もお示ししています。それなりに成果を出しつつあると思います。それから、これから12月の7日から公共交通の実証運行に入ります。公共交通の問題がありますが、どうしても足の問題は、課題になっています。外から来た人に行ったり来たりしてもらおうとしたら、その人たちの足のことも考えなくてははいけませんし、この地域の高齢者の方々の足もしっかりと考えていかないといけないため、公共交通の実証運行をやりたいと思っております。これはハブ&スポーク方式といって、駅とハブを結ぶ、茅野は扇形みたいに駅を中心に、各地域がありますので、ハブを何か所か設けて、八ヶ岳側に向かう路線にバスを走らせて、ハブから横展開、斜め展開をピアという、乗り合いのタクシー、AIの使ったオンデマンドタクシーになりますけども、そうしたものを走らせて、実証運行するというところで、今準備をしているところであります。これも、新しい試みです。とにかく今までのバスだと、一筆書きで運行しているので、15分でいけるところを30分かかってしまう、また、停留所まで行くまでが難しいなどの話がありました。そこで、オンデマンドタクシーですと、「家の前の太い道のとこまで出てください」とお知らせが来るので、停留所はないですがそういった面で便利です、本当に足の悪い方の場合、家まで迎えに行くということもできます。しかし、スマホを使ってやるのが基本ですが、その操作をできない方もたくさんお出でになるということで、当初は、電話での受け付けもやろうというようなことで、準備をしているところであります。

それから、遠隔診療です。これも諏訪中央病院の方を中心に、簡単に言うと未病フレイル、健康を維持するためのいろんなアドバイスを遠隔でやるシステムを、構築できないかということで、これからですけども準備を始めているところであります。

それから、諏訪東京理科大学と一緒にやっている、防災と見守りです。LPWAという通信の技術がありますが、そちらには情報量はそんなに載せられないが、非常に小電力で、長い距離飛ばせるという通信の技術で、八ヶ岳の登山者の守りや子供たちの見守りシステムなどの実験をやっています。最近も、自転車の位置情報を把握するというところで、諏訪市の方で、そのような実証実験をやらせていただいています、地元の企業さんに、そういったものを作っていただいています。

もう一つ防災の関係は、川に水位計を設置いたしまして、上流のAという地点で、水位がこの後ある程度上がったら、1時間後には、下流のB地点というところでは、越水する恐れがある。そういうものを予測するシステムにAIを使って確立しようということで、水位計をあちこちにつけて、実験をしているところであります。

これらの事業はすべて、国の地方創生交付金や、あるいは他の補助金等を使ってやっております。また公共交通は、例えばトヨタ財産さんからも応援をいただいているところであります。

それから、この地域ポイントと、行政アプリがあります。昨年もキャッシュレス地域ポイントのお話をさせていただいていますが、こういったものを、下支えする形にしていければと思っております。本当はもう少し早くできるかと思いましたが、やはりいろいろな方々とお話をする中で、もう少し慎重に進めたほうが良いというような形で、今度行政のいろいろなお知らせを、デジタル化するということと、市民同士のコミュニケーションを取

るツールとして、デジタル行政サービスや、あるいは、市民同士でいろいろポイント等を使って、いろんなやりとりをする。つまり、現代版の結いのようなものをつくれなかと考えております。これから市民会議のような会議を作り、よりこういった形のものでできればいいという意見をいただいてから、そのようなシステムを作っていければと思っております。

いずれにいたしましても、先ほど申しましたスーパーシティにエントリーするために、ちょっと駆け足でまとめてきておりますが、来年度以降は、一つひとつを、腰を据えて、実現化に向けてやっていけるのではないかとというふうに思っております。すでに公共交通の関係は、市民会議を開いておりますけれども、これから特にポイントの利用の仕方ですとか、そうしたものも含めて、全体としてどういうふうにしていくのがいいか、市民の皆様とキャッチボールする場面をつくっていければと思っております。いずれにいたしましても、こうした形のもをこれからやっていきたいと思っておりますが、来年すぐできるとか再来年すぐできるとかそういう話ではなく、この話は、5年10年後を見据えて、今から準備をしていきたいと思いますという話でありますので、10年後ぐらいには、普通にどこの町でもやっているのではないかと思います。ただ、今から準備しておかないと、世の中から置いてきぼりを送ってしまう、ということになっていきますので、今から早めに準備を始めて、その時代の流れにしっかりと乗っていければと思っております。

今、一極集中から分散型社会に変わる、アフターコロナはそうなるだろうと言われております。人々が都会から地方に分散すると言われておりますが、やはりどこに行くかはその人たちが選ぶわけでありまして。やはり選ばれるまちになっていくということが、大事な要素になっていきます。豊かな自然がありつつ、そこそこ便利なまちとしていかなければいけないと思っております。ただ、それをやるにしても、いろいろな良い、施設を作ったり、システムを導入したりしても、やはり、そこに住む人々が本気でそういうことをやろうというようにならなければ、なかなか成功も難しいのではないかと思っておりますので、これから皆様と一緒にそうしたところに向かって、議論したり、また、ともに行動したりということができれば、そのように思っているところでございますので、今後ともどうぞよろしくお願いを申し上げます。ありがとうございました。